



1980-1

No.136

表紙 紙本金地著色南蛮人渡来図

解説は22ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

歴史の断片二つ……………犬丸 直	4
伝統文化の保存・継承について……………坂本太郎	6
猿の名画……………真保 亨	8
1979年W I P O 総会等の概要について ……………文化庁文化部著作権課	10
文化庁派遣芸術家在外研修レポート① キューバ国立バレエ団に留学して……………尾本安代	12

文化庁ニュース	
昭和54年度(第34回)芸術祭 芸術祭大賞・同優秀賞決まる……………	14
史跡の指定等 ——文化財保護審議会の答申——……………	15
重要文化財(建造物)の新指定 ——文化財保護審議会の答申——……………	16
昭和54年度包括宗教法人等 管理者研究協議会(東京会場)の開催……………	18
昭和54年度文化財行政基礎講座……………	18
昭和54年度宗教法人実務研修会終了、 昭和55年度開催予定県決定……………	19
公益信託上野五月記念日本文化研究 奨励基金の設定について……………	19
日本芸術院新会員の紹介……………	20
〈新設法人紹介〉	
社団法人日本かな書道会……………	20
社団法人花芸安達会……………	21
宗教団体・教師・信者数の現況……………	21
文化庁企画・提供「美をもとめて」2月の放送予定……………	22
文化庁地震防災強化計画を作成……………	22

民俗歳時記シリーズ 1月	
武州御嶽山の太古神事について……………西海賢二	23
我が県の文化行政	
伝来文化の掘り起こしと離島文化に 力を注ぐ長崎県の文化行政……………辻 寛	25
著作権シリーズ(8)	
著作権の登録……………	28
美術館・博物館・文化施設めぐり②	
明日の生活を考える糧となる 埼玉県立歴史資料館……………	30
国立劇場ニュース……………	31

キューバ国立バレエ団に留学して



尾本 安代

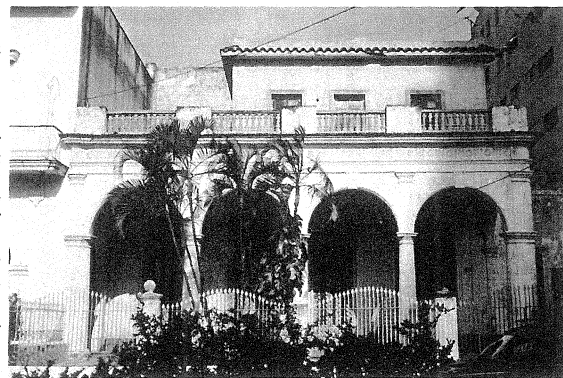
(谷桃子バレエ団)



昭和五十三年度の文化庁派遣芸術家在外研修員に選ばれた時、出国も滞りも困難と言われているキューバでしたが、以前から、世界バレエ界の至宝とも言われているアリシア・アロンソさんのもとで、なんとか勉強したいと考えていたので、とにかく数週間でもよいから、キューバに行ってみようと思いましたが、案の定、ビザがおりるまでに半年近くかかり、やっとのことでの出発できたと思いましたが、旅立ちの第一日目、メキシコから乗り継ぐはずの飛行機が、パイロットのストとかで予定より早く出てしまい、次の便はいつ飛ぶのかわからないとのこと。スペイン語は全くわからず、やはり私は、これからたいへんな国に行くのかしら……と、少々不安な気持ちになりましたが、これらのトラブルの経験も、後になって、多少のことには驚かないという度胸に変わり、体験することのすべてが、物珍しいキューバにおいて楽しく生活していく力になったようです。

文化庁の研修生であるという肩書きのおかげで、キューバでは、たくさんの方たちが力を貸して下さいました。まず困ったのは、日常品も食料も、なんにも簡単には手に入らないということで、ボールペン

一本を買うのに時間もかかり、今まで何気なく使っていた身の回りの品々すべてが貴重に思え、日本から持参していた物一つ一つを大切にするようにしました。私は、キューバ側にとっては、初めてのケースの留学生らしく、入国するとすぐ文化省の方、弁護士の方、バレエ団 (Ballet National de Cuba) の代表の方、そして日本側は留学生の私と、通訳さん、それに大使館の参事官の方が立ち合って下さり、会見が行われました。この時に、これから約五か月間の勉強のプログラムを決める契約が取りかわされ、すべてがきょうきょうしく、怖いような感じさえ受けました。けれども、実際にキューバ国立バレエ団の組織の中に入って、毎日団員と同じように基礎クラスを受け、数々の作品をリハーサルし、一緒に舞台上で試みる、同じバレエを愛する者として、異国に生活しているという違和感はあることなく、とても楽しい毎日でした。お正月でも半袖で過ごせるという気候のせいでしょうか、すべてが、暖かく、陽気に、のんびり過ぎていくようで、海の青さ、太陽の輝き、自然のすばらしさは、本当に「宝島」のようでした。



キューバ国立バレエ団の建物

留学期間中は、稽古場での勉強だけでなく、ちょうど、同じ時期 (入国してから約三週間) に催されていたハバナ国際バレエ・フェスティバルに参加して舞台上に立てました。その後も、ハバナでのお正月公演や、キューバ国内の地方公演などにも数回出演する機会を与えられて、実際に観客の反応を感じながらの舞台体験は、大きな収穫になったと思います。中でも特に印象深いのは、二月にサンティアゴ・デ・クーバ市に公演に行き、野外劇場 (広場に作った仮設舞台) で三〇度近い暑い昼間に舞台稽古をしたり、夜九時過ぎて暗くなるのを待ってからの本番

で、暑さでライトの回りにたくさんの蚊や虫がむらがついている光景をながめながら踊ったことで、たとえ小さくとも一応の設備の整った舞台上で踊っていた私には、日本では体験できなかったこともたくさんありました。それでも、集まった観客の方たちは、並べである正面の席だけでなく、横や後ろの家々の屋上やら、いたる所から見ていて、自分たちもともに楽しむような拍手で、踊り手たちも自然にそれにこたえるよう、ますますエネルギーギッシュになっていくといった感じで、すてきな舞台でした。

日本から勉強にきているバレリーナということで、テレビに出たこともありましたが、なにせキューバでは、二チャンネルしかなく放送時間も限られているので、若い人向けの歌あり踊りありの「エナス・タルデス」というこの番組は高視聴率で、これに出た後 (「ジゼル」一幕のソロを踊りました) 舞台があり、その時は、以前よりだいぶ拍手が増えたような気がしました。

キューバの人たちは、皆、配給制で、品物も豊富



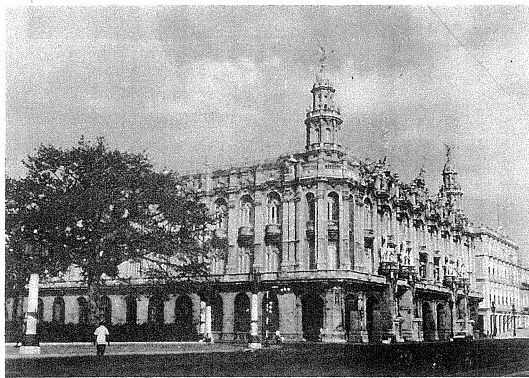
「ジゼル」 レッスン風景

にあるとは言えないのに、夕食に招いて下さると、翌日から一週間くらいは卵とパンくらいしか食べる物がないのでは……と心配するほど気前よく、ありったけのものを御馳走して下さい方もあり、街のレストラン等でも、気長に列を作って何時間もかけて食事をする人々も多く、なんとも生活のテンポが違ってくる、最初の数週間、珍しかったりあきれたりすることもたくさんありました。

カウンター形式の軽食店のようなものも一応あるのですが、ある朝、朝食をどうしようと思つて入ったら、なんとパンにチーズをはさんだものだけ。ジュースもコーヒもなし。それでも、お水を飲みながらこれを食べ、会社に出かけていく人もあるのです。こんな状態の中でも、バレエ団の中は、ダンサーたちが踊りだけに集中していられるような環境になっていて、リハーサル中に少し疲れたような状態にいると、先生が、ドクター (マッサージ室に治療師が待機しているのです) に見てもらっていらつしやいと、筋肉をほぐすよう指示するわけです。

ほかにこれといって娯楽のない国ですから、バレエを多くの人たちが夢と憧れを持って見るのかもしれない。スペイン系 (ヨーロッパ系)・アフリカ系・アジア系などの、異なった民族の人たちが、一緒に一つ一つの舞台を創り上げていって、古典の作品はもちろん、キューバ人ならではのチャチャやヤルンバなどのラテンのリズムに合わせて、新しい作品も、どんどん生まれており、このバレエ団に多くの可能性を感じるとともに、バレエ芸術の広さもあらためて認識させられる思いがしました。

この約五か月のキューバ生活の後、ニューヨークを経由して、後半は、モナコのモンテカルロのバレエ学校で学びましたが、かつてヨーロッパの一部か

ガルシア・ロルカ劇場 (キューバ国ハバナ市)
(昭和54年1月、筆者が舞台上に立った劇場)

編集後記

○新年おめでとうございます。
一九八〇年代の幕開き。例年にも増して、新年の新聞・雑誌・テレビ等では、どのような時代に向かうかの議論が、にぎやかである。エネルギー問題、国際関係等、日本をめぐる内外の情勢は一層厳しくなるが、それだけにまた、物質的なものではなく、心のゆとりや豊かさがより求められようとの声も強いようだ。
○今月号では、年頭に当たって大丸長官の随想、伝統文化に関する坂本先生の随想、それに干支にちなみ猿の名画をめぐる話題等を掲げた。

○これからまた一年、本誌を御活用なさり、応援くださるようお願いします。
(史)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
TEL〇三(三)二六八一二四一(代表)

「文化庁月報」一月号

(通巻第一三六号)
昭和55年1月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100東京都千代田区霞が関3丁目2番2号
発行所 株式会社 きょうせい

本社 〒100 東京都中央区銀座7丁目4番12号
営業所 〒100 東京都新宿区西五軒町52番地
電話 (〇三)二六八一二四一(代表)
振替口座 東京 九一六一番
印刷所 ㈱行政学会印刷所

定価 一五〇円(送料二九円)
年間購読料 一、八〇〇円



1980-2

No. 137

表紙 紙本着色四季花鳥図二曲屏風

酒井抱一筆

解説は23ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

東ヨーロッパ映画の実情

——ポーランド、チェコ、ハンガリーの場合——

……………草壁久四郎 4

公立美術館の役割と課題……………大島清次 7

こども芸術劇場「国際児童年記念

交流特別公演」を終えて……………塩津有彦 10

第3回文化財保存修復国際研究集会

——極東の古美術品の保存——……………田辺三郎助 13

著作権政府間委員会等に出席して……………大山幸房 15

文化庁派遣芸術家在外研修レポート②

外側から見た日本演劇……………井上 思 17

文化庁ニュース

昭和55年度文化庁予算案が決定……………18

重要無形民俗文化財の指定等について

——文化財保護審議会の答申——……………20

第26回文化財防火デー(1月26日)……………23

民俗歳時記シリーズ 2月

針供養……………中村佳子 24

我が県の文化行政

先土器時代からの遺跡の宝庫、

大阪府の文化財行政……………谷川秀善 26

著作権シリーズ(9)

出版権について……………28

美術館・博物館・文化施設めぐり③

区民の文化の創造と向上を願って

——新宿区立新宿文化センター——……………30

国立劇場ニュース……………31

外側から見た日本演劇

井上 思
(演劇演出家)

今日、我が国の演劇界を大別して二つに分類し、新劇と商業演劇と名付け、日本独自の珍現象のごとく言い続けられて久しい。大資本を背景とする上演方法を商業演劇とし、各目的劇団の独立採算システムというか、小資金での上演活動を新劇とするのが、今日において一番無難な分類方法であろうか。

もちろん、当初においては、両者は根本的にその上演内容を異にし、新劇は、旧劇^レに対して翻訳劇を主とする活動を通し西洋思想を輸入し、日本の演劇界を海外レベルにまで引き上げた功績は大である。

しかし今日、新劇界も個性ある日本作家の作品を多く上演するに至って、翻訳劇が絶対条件でなくなっていることからして、双方の質的な問題は残るとしても、上演活動の金銭的形態の違いだけが現在二つの言葉を多少なりとも存続させているようである。そして、安定した上演活動を続けるためには、独自の資本力を強化・拡大・組織化していくのは当然で、この面からやがては商業演劇と新劇の質的な差がなくなることは十分に予想できるし、両者の俳優の交流は、一方でその時を一層早める一因になっていくかもしれない。

要は演劇的な質の問題であって、分類そのものがナンセンスというわけだ。今日、西欧の演劇は明らかに日本的な判別方で言えば、正しく日本独自のものと云われている、その二つに分類できるし、それ

は演劇の社会的な特性からして当然すぎるほど当然と言わねばなるまい。

いずれにせよ、演劇活動の根底には、今我々の生活の中から、鋭いテーマを絞り出し、拡大して、反映させる作業が必要となってくるのであるが、もし我が国の演劇水準が欧米と比較して多少なりともおくれる部分があるとすれば、どうやらそれは日本人の思考形態に原因があるように思われる。

それは「論理的な思考の積み重ね」とでも言えようか。古来情緒性という不可思議なものを重んじ、正に阿吽の呼吸で生活を、人間関係を営んできた日本人には、時としてその論理的思考というやつは、罪^レであり、日本人本来の美徳を理解し得ない不粹者であるとする風潮が底にある。

生活の知恵としてはそれもよからう。しかし、すべての芸術活動の本質は、その作業過程において正にこの論理の積み重ねの上に確として築き上げられるべきものである。

一例をとるなら、「涙」という人間にとって不可欠の現象がある。日本人はどうやらその悲しい、泣ける状況のみを厳選し、演劇化する。したがって、形として見せることになり、やがてはそれは型に固定から生理的な構造に至るまで、まず論理的に分析し、その結果でできたものを自分に問い直し、幾百もあ

る表現方法の内から理論的な裏打ちによって一つを選び出し、不可能とあらば新しい表現方法を作り上げ、そこを出発点として「涙」という現象を飛躍的に再構築する作業をくり返した上で演劇化するというプロセスの違いがあるようである。

その結果、欧米で、今日の日本演劇が、非常に特殊なショーの一形態・中途半端な風俗劇とまで酷評されるゆえんは、どうやらその思考方法の根本的な違いが原因のように思えてならない。

かくして我が国の演劇は、演出方法一つをとってみても、欧米の亜流となり、それも実に巧妙な方法で第一線の西欧のテクニクを取り入れ、その中に自分のささやかな手持ちの駒を押し込めるといった芸当で、明日の方向を見いだそうとする安直な節が見られる。

つまりは、あらゆる要素からして、我が国の演劇が、本来の芸術性を発揮でき得ないのみか、単なる時代の風俗として、生活に定着化していく危険性があるということだ。このことが一方で逆に本当の意味で演劇と大衆の接点を作り得ない原因であるような気がしてならない。

行きつくところ演劇は、人間生活の、ある特殊な角度から切った断面であり、人間そのもののカリカチュアであるはずである。その演劇を、とりわけ日本という特異稀な環境の中で育てていくとすれば、単に流行のテクニクで状況を見せたり、特異な状況を、特異な俳優に演じさせることによって、観客に一時的な共感、ないし異和感を感じさせることに満足する現状では、むしろその徹底さの加減において、無機物としての人間の感情面を形としてとらえ、型という様式美にまで作り上げたかつての旧劇の方が余程、論理的思考の結果と言えるかもしれない。

いずれにしても今後の我が国の演劇は、理論的な裏付けの下に、新劇・商業演劇という既存の二つのジャンルから第三演劇と名付けられるような何物かに向かって突き進む必要があるように思われる。

(昭和五十三年度文化庁派遣芸術家在外研修員)

編集後記

○二月、国会が再開され、予算委員会での質疑が続く。五十五年度予算の政府案では、文化庁の予算額が、四百億円を超えた。厳しい財政事情の下で大幅な増加を図るのは容易なことではないが、第二国立劇場の設計競技、国立文楽劇場の建設着工などの国立文化施設整備、地方における芸術鑑賞機会の拡充、地域伝承活動の助成などに施策の前進がみられよう。○芸術鑑賞機会の拡充といえは、最近における公立美術館の整備には質量とも眼を見張るものがある。プームともいえるこの傾向をどう捉えるのか、本号では県立美術館の運営にも携わっている大島氏に論じてもらった。

○また、先月号から文化庁が実施している芸術家在外研修派遣者の帰国レポートを随時載せていくこととした。

(史)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課

TEL:〇三(三六八)二四二(代表)

「文化庁月報」二月号

(通巻第三七号)

昭和55年2月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社 きょうせい

本社 〒100 東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所 〒100 東京都新宿区西五軒町52番地

電話 〇三(二六八)二四二(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 ㈱行政学会印刷所

定価 一五〇円(送料二九円)
年間購読料 一、八〇〇円